

町長 新年のあいさつ

新年明けましておめでとうございます。みなさまには輝かしい新年を健やかに迎えのことで、心からお慶び申し上げます。昨年中は、町政への温かいご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私が町長に就任して1年を迎えることとなりました。新しい年を迎えるにあたり、引き続き町民のみなさまの声を大切に、安全・安心なまちづくりに一層努力して参りたいと気持ちを新たにしているところであります。

昨年11月25日には、当町と御嵩町を結ぶ主要地方道多治見白川線伊岐津志工区の開通式が行われ、「やおつトンネル」を含む2.47キロメートルが全線開通しました。平成7年度から約21年間という長期に渡り、総額62億円の巨額が投じられて、ようやく開通の日を迎えることができました。これまでこの工事に関わってこられました非常に多くの方々、また、いつかいつかと心待ちにしてこられた多くの町民のみなさまには、万感の思い、胸に迫るものがあったのではないかと推察申し上げます。八百津町にとりましては、誠に喜ばしいことであるとともに、交流人口の増加や移住定住の促進、また観光振興など将来に向けて大きな期待を抱かせるものであると強く感じているところであります。

現在当町は「命のビザ」をはじめとする杉原リストのユネスコ「世界の記憶」登録に向けて、町全体、岐阜県と共に総力を挙げて取り組んでおります。今後一層、杉原千畝氏の「命の尊さ」「命の大切さ」といった人道・博愛精神を国内外に発信し、交流人口の増加を推し進めていく必要があります。そして国民として、杉原千畝氏の心を学び育み、未来永劫に継承していかなくてはならないと考えています。

また、昨年7月31日から開催いたしました杉原ウィークの中で、本町とリトアニア・カウナス市との間で、友好交流に関する同意書を交わしました。カウナス市のイナ・プクリテ教育文化委員長は、「人々の命を救った杉原氏の選択が世界中に知られることが重要」とあいさつされ、今後に向けた友好関係が期待されています。

昨年10月6日、公共交通の再生と観光振興の期待を乗せた本町のラッピングタクシー、杉原千畝氏などをデザインした2台について、東京で出発式を行いました。1台は執務室でペンを取る杉原氏、もう1台は町の春祭りの山車をデザインしました。ぜひ大勢の方に利用していただきたいと思っております。

さらに、産・学・官連携による新たなエネルギーへの取り組みが芽生える中、この機会を最大限に生かし、当町の地域資源を活用した再生可能エネルギーを推進することで、新たなまちづくりやビジネス

モデルを創造できる環境が生まれつつあります。

また八百津町と岐阜大学が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築くこととなりました。持続的・発展的に連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成および発展、未来を担う人材育成、ならびに町民等の教育文化活動等の推進に寄与することを目的とします。町と岐阜大学の間で包括連携協定を12月1日に締結しました。

連携活動内容は次のとおりです。

- ① 出会いから結婚・子育てまでのサポート体制の充実など少子化対策の推進
- ② 空き家・空き地の活用など移住・定住の推進
- ③ 消防団員の確保や防災意識の高揚など地域防災の推進
- ④ 杉原千畝氏を核とした人道精神の普及・啓蒙など人道教育の推進
- ⑤ 夢・志をもった人材育成の推進
- ⑥ 地域に合った農作物のブランド化の推進
- ⑦ 町の観光資源を活用した地域活性化の推進
- ⑧ 低炭素社会の実現と次世代エネルギー産業の創出に向けた取り組みの推進
- ⑨ 地域の課題解決に向けた取り組みへの参加とコミュニティ活動の活性化

また、2年間に渡り作り上げて参りました第5次八百津町総合計画を、昨年策定させていただきました。目指すべきまちづくりの将来像ですが、町の状況や、町民の意向、社会・経済の動向、課題、基本的視点を踏まえ、次のように定めます。

「ひとと自然が響き合い 未来へ奏でる人道の町 やおつ」

町の宝である杉原千畝氏の人道精神を基調にしつつ、町民と自然が共生して生活できる優しいまちづくりを目指します。それを現在だけでなく、より発展的に将来へと繋ぎ、人が輝くようなまちづくりを行っていきます。人を呼ぶ魅力のあるまちづくりと少子高齢化への対応をして参りますので、なお一層のご支援ご理解をお願い申し上げます。



結びに、今年一年が町民のみなさまにとりまして、素晴らしい年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年のあいさつといたします。

八百津町長 金子政則

